



第 243 回例会

日 時：平成 28 年 1 月 14 日(木) 16:00～20:00

場 所：八王子エルシィ

出席者：53 名 出席率 80.3%

(会員総数 66 名 欠席 13 名)

1. 開 会 荻島例会委員長の司会で開会

配布資料の確認

2. 挨拶 永井 昌平会長



明けましておめでとうございます。今年のお正月は大変素晴らしいお天気が始まりました。異常気象とかと言われるかもしれませんが、大変よい一年のスタートが切れたのではないのかと思っております。

おります。

さて、いよいよ来月から生涯学習サロンが始まります。生涯学習サロンはプロバス会員全員が参加して一人一役ということでやっていく大切な事業です。是非皆さんのお力をお借りして立派な学習サロンにしていきたいと考えておりますので宜しく願い致します。

それからこの後ご紹介していただきますが、新入会員の方が一人入られます。春から大変縁起のよい話で、今年度に入って3人目の方が入られたということです。一方で残念なことに12月いっぱい3名の方が退会されましたので、現状維持であります。現状維持というのは緩やかな後退を意味するのだそうです。是非今後とも新入会員の勧誘をお願いしたいと思います。私の任期があと半年ですですのでその間に何とか皆さん宜しく願い致します。

3. 新会員のご紹介とご挨拶



推薦者の杉山友一会員より佐々木秀勝新会員が紹介されました。「私が八王子防犯協会長として地域の犯罪抑止の活動をしております時に創価大学の大学人の立場から学生さんをまとめて

長い間ご協力をいただいた方です。現役時代は創価大学の要職を歴任されまして、建設課長、管理部長等をなさって来られました。現在は囑託として主事のお立場でおられますけれども、併せて大学のキャンパス会のサービス部門の総括、株式会社創学サービス代表取締役でございます。

何より私たちのクラブとして歓迎申し上げたいのは、昭和26年生まれでございます。一般社会の中では現役リタイアの年ですが、私共のクラブでは青年かと思われます。多いに期待をしております。

佐々木さんは、戸田会員さんとも大変昵懇の間柄でございます。その他お話を聞きますと御懇意の方もおられるようです。できるだけ早くプロバス色に染まって欲しいと願っているところです。お住まいも上壱分方で近いですので、これから大いにプロバスにご貢献をいただけるものと思っております。なお、佐々木さんが3名になりますので、お名前の「秀勝さん」と呼んでいただければよいと思います。

佐々木新会員のご挨拶

ご紹介を頂きました佐々木秀勝と申します。北海道で生まれ、大学受験のために上京し、翌年1972年に創価大学経済学部に入りました。以来、44年、八王子にお世



話になっております。卒業後、創価大学に勤務し、建設課長の時に戸田工務店様にお世話になりました。また、学生部に勤務していた時には、学生の病気などで根本様にお世話になりました。

今年、65歳という節目を迎えました。今、振り返りますと、創価大学が1971年に開学して、その建学の精神の一つの「人間教育の最高学府たれ」という言葉に惹かれまして、旭川高専の電気工学科を中退し、創価大学を目指しました。そこで合格できたことが、今ある全てなのかなと感じています。

何か特殊技能とか専門知識があるわけではありませんので、この会のために何ができるか心配ですが、ご迷惑だけはかけないように、これを機会に一人の人間として精進努力していきたいと思っておりますので、何とぞご指導いただきますように宜しくお願い致します。

4. ハッピーコインの披露

岩島副会長から17名のハッピーコインの披露がありました。(7~8ページに掲載)

5. バースデーカード贈呈

池田会員の体調の都合でバースデーカードは来月となりました。宜しくお願い致します。

6. 卓話

『オペラのお話』 山形 忠顯会員

明治維新から150年、日本のクラシック音楽界の活況は世界の驚きであり、高い評価を得ています。声楽分野を見てみると、リートでは本場ドイツに匹敵する有能な歌手と多くの愛好者が存在します。オペラではバロック・古典派・ロマン派から近・現代



作品、そして創作オペラ（日本人作曲家による日本語のオペラ）の制作公演が盛んです。今日は、なぜそのような状況になったのか、明治維新以来の日本のオペラの歩みについて

アウトラインをお話します。

I 南大沢コミュニティオペラ<愛の妙薬>

情報誌「ラ♪ラ♪ラ 2015/11月号」「同12月号」

をご覧ください。

来る2月11,13両日、南大沢文化会館で、ドニゼッティ作曲の喜歌劇<愛の妙薬>が公演されます。このオペラは、イタリアの伝統的な仮面音楽劇のコメディ・デラルテ系譜の作品で、誰でも知っている滑稽なドラマを典型的な登場人物が演唱する愉快な大衆的な娯楽作品です。オペラ・ブッフア<愛の妙薬>は、<セヴィラの理髪師>(ロッシーニ)、<フィガロの結婚><ドン・ジョヴァンニ>(共にモーツァルト)と並んで世界で最も多く親しまれています。

日本では、1970年頃から全国の市や町に立派な音楽ホールが建設されるようになり、また「コミュニティオペラ」が手作りで制作公演されるようになって、地域の活性化に大きく寄与してきています。此度、南大沢のオペラ愛好の声楽家と合唱団の皆さんが中心となって、様々な分野の人達とコラボして「南大沢コミュニティオペラ<愛の妙薬>」が制作公演されることは誠に意義深く嬉しいことです。

II オペラとは

音楽(声楽と器楽)、劇、文学、演劇、舞踏、美術などの総合芸術です。声楽を中心に、本質的部分が音楽によって進められる劇的作品。イタリアで育ち、ヨーロッパ各地で栄え、全世界に普及し、日本には19世紀末に輸入されました。多数の人員(出演者、器楽奏者、指揮者、演出家、振付師、照明家、建物管理者)と多額の費用を要するオペラは、一面極めて大衆的な娯楽でもあり、高額な赤字を国家、自治体、企業、資産家などの援助で埋めているのが世界的な現実です。<音楽中辞典(音楽の友社)>

III 日本のオペラ

1. 音楽教育の明治維新

1868年、明治天皇の「五箇条の御誓文」が發布され、これに基づき明治政府の三大改革、「学制」公布(1872年)、「徴兵令」公布(1873)、「地租改正」着手(1873)が為されました。「学制」に関して「必ス邑に不学の戸なく家に不学の人ナカラシメン事ヲ期ス」として、小学校は義務教育となり、寺子屋の多くが小学校に転換、僅か数年で26000校余りの小学校が設立されました。就学率は初め5割以下でしたが、後急増、明治末年には100%近くに達しました。

1872 学制公布 規定「唱歌(当分之を欠く)」

(1) 伊沢修二の活躍

1875-1878 米国留学 L.W.メーソン、ブリッジウォーター師範学校を卒業、ハーバード大学で理学研究

1879 「音楽取調に付見込書」提出（文部大輔へ）

第1 東西二洋の音楽を折衷して新曲を作る事

第2 将来、国楽を興すべき人物を養成する事

第3 諸学校に音楽を実施する事

1880 L.W.メーソン着任 唱歌教育開始

1881 伊沢修二 音楽取調掛長

1888 伊沢修二 東京音楽学校長 ～1899

専修部と師範部を併設

唱歌教育を全国津々浦々に展開

国定教科書「小学唱歌集」「明治唱歌集」「中等唱歌集」

欧米の音楽学校 Conservatoire は音楽の専門教育機関ですが、東京音楽学校では「専修部」ばかりでなく、「師範部」を併設したことが日本の音楽教育のあり方を決定づけました。

当初は「唱歌（当分之ヲ欠ク）」とされましたが、1880年頃から国定教科書を用いて全国の小学校・中学校・女学校で「唱歌教育」が実施されました。これが日本国民の複・音楽的感受性 bi-musicality を徐々に陶冶してきました。

今や、現代の日本人は日本伝統音楽からクラシック音楽、世界の多様な民族音楽まで受容でき、夫々が楽しみ、音楽活動できるようになりました。

(2) 幸田延の活躍

1885 音楽取調掛伝習所卒業（第1期）

1889-1895 欧米留学 音楽実技・音楽理論を完全習得

1895 東京高等師範学校附属音楽学校教員 研究演奏と音楽指導

(3) 優れた音楽家・教育者の輩出・活躍

1887 小山作之助 音楽取調掛卒業／以下東音卒

1895 田村虎蔵 1896 幸田（安藤）幸 1898 滝廉太郎 1900 岡野貞一 1904 三浦環 1906 小松耕輔 1908 山田耕筰

1912 中山晋平 沢崎定之 梁田貞 野矢トキ

（東京府立第四高女、現南多摩高校教員就任）

1926 奥田良三 木下保 佐藤美子

古藤孝子（満州大連・神明高女教員就任）

2. オペラの到来

(1) オペラの享受・享楽

1911～1916 帝国劇場歌劇部（喜歌劇や抜粋オペラ）

1917～1925 浅草オペラ（ ）

1919、1921 ロシア歌劇団

（名作オペラの本格的公演）

1923、1925、1926、1927、1929 カーピ・イタリア歌劇団（名作オペラの本格的公演）

(2) 世界的歌手の出現

三浦環 1915 ロンドン＜蝶々夫人＞主演デビュー～全世界で2,000回以上主演 1936 第2,001回＜蝶々夫人＞出演（歌舞伎座）

原信子 1919～1934 ミラノ・スカラ座専属ソプラノ 1952＜夕鶴＞初演・主演

関屋敏子 コロラトゥーラ・ソプラノ ミラノで＜椿姫＞＜ルチア＞＜夢遊病の女＞主演

藤原義江 1921 ロンドン デビュー独唱会～世界で独唱会、レコード吹込、オペラ出演

3. 藤原義江のオペラ運動

(1) オペラの普及

1934 藤原歌劇団旗揚げ＜ラ・ボエーム＞主演以後、戦中（除1944～1945）、戦後、名作＜カルメン＞＜蝶々夫人＞＜椿姫＞等を全国公演・主演

(2) オペラ歌手の育成（演唱指導～デビュー）→挿話1

長門美保 1940 佐藤美子 1941 笹田和子 1942

大谷洌子 1943 木下保 1946

秋元雅一朗 1946 宮本良平 1947 砂原美智子 1947

三宅春恵 1947 永田弦次郎 1948 畑中良輔 1948

石津憲一 1949 川内澄江 1949 山口和子 1950

柴田睦陸 1950

私は直接乗杉校長に面会して縷々説明してみたが、乗杉校長は言う。「現在の日本では、在校生に化粧をさせ衣装を着せて舞台へ出すわけにはいかない。将来、10年も経ったらオペラを本格的に取りあげるような日が来るかも知れないが、とにかくまだ早い。10年早い。」（結果、笹田和子は東京音楽学校を退学し舞台へ出る道を選んだ。）

「35周年を迎えた藤原歌劇団」

(3) 国立劇場建設運動 →挿話2

1947 国立劇場建設委員会設置

提唱 片山哲首相・西尾末広国務相 委員 藤原

義江・堀内敬三・大田黒元雄他

秋になって、片山首相、西尾国務相らの提唱により、国立劇場建設の委員を委嘱され、毎日のように首相官邸に通った。委員は楽壇側からは私と堀内敬三、太田黒元雄氏らが選ばれ、主に私が直接の折衝に当たった。現在、到底国立劇場を建設するだけの余裕はないので、帝劇を6カ月間政府が借り、国立劇場並みの運営をする、という案であった。この時私が一番驚いたのは、西尾末広という人が大変なオペラ愛好者である、ということだった。—中略—

年が明けて23年になると、行き悩みであった国立劇場問題が急転して、どうやら目鼻が付きかけたとたん、不幸にも片山内閣は瓦解した。私たち委員は、うすら寒い首相官邸でお別れの乾杯をした。実現しなかったが、片山首相の国立劇場へのこの一石には大いに感激した。

「35周年を迎えた藤原歌劇団」

4. オペラ出演解禁～オペラブーム

1945年10月、戦争協力のためにつくられた御用団体「日本音楽文化協会」が解散しました。直後の12月、山根銀二、山田耕筰両氏の間には所謂「音楽戦犯論争」が起き、世間の関心と注目を高めました。「一億総ザング」説も声高くありましたが、心ならずも戦争協力へ巻きこまれた芸術家の主体的な責任が問われたのでした。東京音楽学校でも内紛があり、1946年8月、井口基成、木下保両教授が解任されました。

1946年9月、木下保は藤原歌劇団公演<道化師>で主演デビューし、以後、木下保門下の優れた逸材が次々とオペラに出演し、その演唱と舞台は戦後の人々に生きる喜びと希望を与えました。また藤原歌劇団に次いで多くのオペラ団体が生まれて、オペラブームとなり、1956年のNHK招聘イタリア歌劇団公演以来ますます活況を呈し、現在では全国各地に「コミュニティオペラ」が制作公演されるようになりました。

→挿話3

1946 東音関係者 木下保・秋元雅一郎・藤井典明の藤原歌劇団オペラデビュー

1946 長門美保歌劇団設立<蝶々夫人>

1949 関西歌劇団設立

1949 労音発足～全国労音で圧倒的多数回のオペラ公演

1951 わらび座設立

→挿話4

1952 二期会設立<ラ・ボエーム>

二期会の設立について野村光一は次のように語っている。

「藤原義江という人は、—中略—藤原歌劇団を利用するためには、誰だって構わずに歌劇団に入れちまおうという、そういう包容力の大きさがあって、それが今日のオペラ運動を確立させたと言えるね。藤原歌劇団の起死回生となった<ドン・ジョヴァンニ>(1948年公演)のとき、中山悌一なんかが入ってきて歌ったでしょう。これが彼をして二期会を作らせる動力になったんだ。一緒にやっているうちに、藤原歌劇団の連中がいかに出鱈目な歌い方をしているか、ということがはっきりしてきたんで、やはりオペラはもっと正道を踏まなきやいけないってことになり、独立して二期会を作ったわけだ。—中略—とにかく中山悌一を始めとする芸大派が藤原歌劇団に入ってきたということは事実でね、柴田陸や三宅春恵、川崎静子という仲間が入ってきた。そして彼等がオペラの第二期を作ろうとしたんですよ。」

野村光一・中島健藏・三善清達「日本洋楽外史」

1955 二期会研究生制度発足 ～2015 第61期

1956 東京藝術大学第1回歌劇公演<椿姫>

～2015 第61回公演

1956 NHK 招聘第1回イタリア歌劇団公演

<アイーダ><フィガロの結婚>他

1959 第2回<オテロ>他 1961 第3回<道化師>

<アンドレア・シェニエ>他

1963 第4回 1967 第5回

1958 教育オペラ協会設立(1960 日本オペラ研究会 1966 日本オペラ協会)

1961 東京文化会館落成 本格的オペラ制作の施設設備

1976 オペラ研修所設立(国より二期会へ委託 新国立劇場開設まで)

1997 新国立劇場落成 柿落し 團伊玖磨作曲 オペラ<建(たける)>初演 初代芸術監督 畑中良輔

以後、日本全国に様々な組織—声楽家集団、公共機関、愛好家グループによって数多のオペラ制作公演が行われ、現在の盛況となりました。

IV 最近のオペラ

1. 今後公演予定のオペラ

情報誌「ぶらあぼ 2016/1」及び資料「抜書ぶらあぼ 2016/1 掲載オペラ」をご覧ください。

2. オペラ制作公演の現状

資料「オペラ制作団体（2016年現在）」をご覧ください。注目すべきは兵庫県立芸術文化センターのコミュニティオペラです。シーズン制をとり、毎年夏季に10日程のオペラ公演を行い、10周年になりました。佐渡裕芸術監督、専属のオーケストラとコーラス、世界的レベルのソリスト（日本国内、地元を含めて）、そして全公演を満席にする地域住民の支持によって、高い芸術性と親しみやすいオペラ活動が展開されています。

以上お話ししてきた明治維新から現在に至る日本のオペラの歩みとその成果は、次の3点に負うと思います。

1 教育を根幹とした国づくりの努力

2 進取の気象に富む勤勉な国民性

3 傑出した人物の活躍

伊沢修二 音楽教育の構想—制度・学校づくり

幸田 延 音楽教育（理論、実技）の実践

藤原義江 オペラの普及、歌手の育成、国立劇場建設運動

木下 保、柴田睦陸、中山悌一 オペラ運動の第二期をつくり、今日のオペラ盛況を促進

ご静聴をありがとうございました。

7. 幹事報告 田中幹事

今日は大変貴重なお話を聞かせていただき、山形会員さん、ありがとうございました。中々滅多に聞けるお話ではないので、感激を致しました。中身はあまりよくは分かりませんが、毎日朝ドラで明治のことをやっております。明治の方々はずごいエネルギーとパワーがあったのだと改めて感じさせていただきました。物事を始めるときの勢力というのはすごいものだと改めて感じた次第です。ありがとうございました。

幹事から3点、お願いがあります。

(1) 例会に当日急に欠席される、あるいは無断欠席な



どが起っており、苦勞しております。止むを得ない場合はその日の朝になるかとは思いますが、原則として2日前までには各委員会委員長を通して例会委員会委員長に連絡いただけますよう、お願い致します。

(2) 浮き城プロバスクラブが五周年を迎え、式典のご案内が来ております。

(3) 「ポストが付きました」というお知らせです。引き続き岡田さんにお世話になり、玄関の所に新たにポストを設置させていただきました。戸田さんに設置していただき、杉山さんにご足労を願い、3つの所属の銘板が打ってあります。

さらに、3ケタの番号合わせの鍵を設置しました。それぞれの担当が適切なタイミングで郵便物のチェックをお願い致します。

(4) 「恒例になりました、今日は何の日」

1959年1月14日は「タロジロの日」です。南極に置き去りにされた南極観測隊の2匹の樺太犬、タロとジロの生存が確認された日です。その3年前の1956年の秋、南極観測船の「宗谷」が11人の隊員と15頭の樺太犬と共に南極へ出発。2年後、第二次越冬隊を送り込むために南極に向かった「宗谷」は厚い氷に阻まれて断念しました。11人の隊員はヘリで救出されましたが、15頭の樺太犬は鎖につながれたまま氷原に置き去りにされました。翌1959年の今日、1月14日、ヘリコプターが2頭の生存を確認というニュースが世界を感動の渦で包み込んだということです。

誕生花はシクラメンで、花言葉は内気です。



8. 各委員会活動報告

(1) 例会委員会 荻島委員長

出席者数、出席率につきましては頭書の通りです。長期欠席者には各委員長が事前に電話で確認をお願いします。欠席者に資料を送付しますが、創立20周年記念誌や今日の卓話の資料など厚みがある物は送料が高いため、特に依頼があった方以外は、次に来た時にお持ち帰りいただくようお願いします。

(2) 情報委員会 土井委員長

プロバス日より242号をお配りしました。今回は磯委員が編集を担当されました。できるだけ多くの

方に投稿をお願いします。

(3) 会員委員会 馬場委員長

昨年12月末、残念ながら3名の方が退会されました。石田文彦会員は会員在籍10年になりましたのでこの辺で区切りをつけたいということでお辞めになりました。増田由明会員は住んでいる東京都港区での活動がお忙しくなられたのでそちらを優先させたいとのことでした。橋本晴重郎会員は健康上の理由で出席が叶わないとのことでした。12月末現在会員数66名となりました。

また、この度、新会員として佐々木秀勝様をお迎えすることができましたので、会員数67名となりました。これからも新しい会員のご推薦をどうぞ宜しくお願い致します。

(4) 地域奉仕委員会 山口委員長

生涯学習サロンが2月25日に開校します。話し手以外の方、司会者や記録係ほか皆様の協力をお願いします。あと2点のお願い。

1. サロンの聴講希望テーマ調査依頼書について未提出の方、本日中に記入の上、提出をお願いします。
2. 本日現在、一般会員参加希望の葉書を32通受領しています。今後とも皆様から更なる勧誘をお願いします。

(5) 宇宙の学校 下山プロジェクトリーダー

12月24日、宇宙の学校推進会議(プロバスクラブPJメンバー&子ども科学館メンバー)を持ちましたので、状況を報告します。

(1) 2015年度のアンケート纏めをしました。15年度は参加率が高い上、アンケート回答率も高く、有意義な意見があり、次年度処置しなければならない事もあります。詳細は時間の関係で省略します。

(2) 各会場(工科大、北高校)別の新年度への取り組みの考え方を確かめました。新会場創設はアプローチしましたが、今年はできそうにありません。

その結果、今年も昨年並みの規模になりそうです。

(3) ボランティア募集(大学生、一般公募、他)をしようと思意見交換しました。ボランティア募集が一つのキーファクターになりそうです。

9. 同好会活動報告

麻雀同好会 荻島靖久会員

1月19日、第3火曜日13時から、今回は新年会

を兼ねて行います。出席される方は今日中にご報告下さい。

カラオケ同好会 杉山友一会員

連絡ボックスにメンバー宛のお知らせが入っていますのでそれを見て下さい。

10. その他

今日の座席について 荻島委員長

今日の新年会は席をばらばらにしようと思っておりましたが、時間の都合でできませんでした。宜しくお願い致します。

11. プロバス賛歌斉唱



12. 閉会 岩島 寛副会長



今日は、青年・佐々木秀勝様をお迎えし、大変嬉しく思います。平均年齢が若返り、とても喜ばしいことと思っております。また、卓話では日本の西洋音楽の歴史をお聞きし、懐かしいと同時に知らないこともた

くさんあり、大変勉強になりました。ありがとうございました。2月25日からいよいよ生涯学習サロンが始まります。八王子プロバスクラブにとって大切な大きな事業ですので、それぞれの委員会を通じて協力をしていただきたいと思います。

今日の委員長の報告では、参加人数が今のところ32名ということです。果たしてこれで100名位になるのかどうか心配です。皆さん、お知り合いの方等にご案内いただき、大勢の方が参加して下さいますようお願いしています。

新年懇親会

<マジックと歌、楽しい懇談>

司会：野口例会副委員長の司会で開会。永井昌平会長の挨拶の後、土井俊玄前会長の音頭で声高らかに乾杯し、和やかに第二部の新年懇親会がスタート。



アトラクションとして、下田泰造会員による「楽しいマジック」が披露されました。独楽や瓢箪などを使った見事な大道芸で会場は拍手喝采。布の上を大きな独楽が回りながら行ったり来たり。会場のあちこちから「わー！すごい！」「素晴らしい」という歓声があつという間のひとときでしたが会場は大きな拍手でいっぱいになりました。見事なマジックショーをありがとうございました。



野口会員のスムーズな司会進行で会場がよりいっそう楽しい雰囲気となり、「声自慢、カラオケ大会」ではたくさんの会員の

皆様がマイクを手にお得意の歌を披露して下さるなど和気あいあいとした新年会となりました。野口会員、ご苦労様でした。後でお聞きしたところ、野口会員はお食事を召しあがる時間もなかったそうです。



最後は岩島寛副会長の手締めで、新年会はめでたくお開きとなりました。



ハッピーコイン

- ◆楽しい一年になることを期待して！！永井 昌平
- ◆2016年が輝かしい年でありますよう御祈念申し上げます。今年もどうぞよろしくお願い申し上げます。飯田富美子
- ◆明けましておめでとうございます。皆様にとって本年が最良となりますよう祈念いたします。土井 俊玄
- ◆本年もよろしくお願い致します。戸田 弘文
- ◆本年も又、楽しいプロバスライフを。浅川 文夫
- ◆新年おめでとうございます。本日新会員、新しいお仲間をご紹介致しました。杉山 友一
- ◆新しい会員をお迎えすることが出来ました。皆様、よろしくお願い致します。馬場 征彦
- ◆新入会員佐々木秀勝様をお迎えしての新年の始まりです。今年も皆さんお元気で。田中 信昭
- ◆昨年秋に入会致しました。名前と顔が徐々に覚えてきました。今年も宜しくお祈りいたします。持田 律三
- ◆今年全日本プロバス協議会、大忙しの年です。どうか皆様、ご協力よろしくお願い致します。立川富美代

◆私は、今年の干支、申年生まれです。ここ数年、
受難続きですが、今年こそいい年であって欲しいと
願っています。 佐々木研吾

◆暖かい新年を迎え、元旦には家族一同集まり、よ
い年が始まる様に思えます。 高取 和郎

◆今月は誕生月です。いよいよ 80 歳の大台に乗り
ます。自分でも不思議な気がします。 下山 邦夫

◆今年の旅初めに「ソウル」へ行って来ました。例
年より温かく、ロッテホテルの滝が凍っていません
でした。 野口 浩平

◆青山学院大学優勝。新春箱根駅伝に於いて、母校
の青山学院大が完全優勝、二連覇。おめでとう。

宮崎 浩平

◆運動と仕事のしすぎで？両膝が悪くなり、年末に
両膝の手術を行い、1月4日お蔭様をもちまして無
事退院しましたが、まだちょっと歩行と階段の昇り
降りが困難で現在リハビリ中です。皆様もお体には
十分お気を付けて下さい。 岡本 宝蔵

◆我が家の小さな庭に毎朝食事時にヒヨドリがつか
いでやって来て、赤い実をついばんでいます。メジ
ロやシジュウカラなどもやって来ます。そんな小鳥
たちを眺めながら食事が出来るのは、とてもハッピ
ーです。 岩島 寛

俳句同好会便り

私の一句～1月の句会から

河合 和郎

俳句は頭の体操に最適。物事を観察し、思考し、
文字に書いて……と脳には刺激的な作業ばかり。そ
のためか同好会の面々は若々しくて元気一杯。

元旦や富士の高嶺の雲輝る 飯田富美子

作者の故郷の一景。今年の元日は快晴に恵まれ、
富士山も殊の外美しかった。輝く雲を従えて。

初参り古刹にうすき千社札 立川富美代

神社仏閣にはよく千社札が貼ってある。初参りを
済ませてふと見ると薄れた千社札が目に入った。

元日や寂れ社も人の列 馬場 征彦

普段は見向きもされない神社に人の列が。一步引
いてみると、何とまあ日本人はという風刺が。

七草を刻みて偲ぶ今朝の粥 渋谷 文雄

何かに付けて思い出される妻の面影。こうした年
中行事のたびに二人で過ごした日々が甦ってくる。

この妻にして我あり去年今年 東山 榮

妻を礼賛する一句。ここまで手放しで言い切れる
のはすごいこと。句評の域を越えている。

寒にまあ蒲公英咲けり小比企丘 山形 忠顯

たんぽぽは春咲く花。暖冬異変でもう咲きだして
いるという。「寒にまあ」に驚きの心情が。

切餅や角を残してふくれたる 池田ときえ

ふくれても理性を失わない作者自身を詠んだもの
か。ユーモラスにして人生訓にもなっている。

浅漬の蕪に残る野の香り 田中 信昭

上手い一句。下五の措辞がいい。この蕪を自分の
畑で収穫したものなら、美味は一際であろう。

朽ち柿につなぐ命や冬の鳥 河合 和郎

今日も裏庭の柿の木に野鳥が群れている。わずか
に残っている朽ちた実も命の糧になるのだ。

20周年記念誌の誤植訂正のお願い

誠に申し訳ありませんが、12月例会時配布の記
念誌に誤植がありましたので、ご訂正願います。

① 81 ページ、岡部さんの記念文集のタイトル「学
校3年生の小学夏休み」を「小学校3年生の夏休
み」と訂正。

② 114 ページ、岡部さんのプロフィール⑤中の
「八王子体育協会」を「八王子市体育協会」と
訂正。

(佐々木正)

投稿は次回に

今回は紙面の都合で投稿を掲載することができ
ませんでした。次回をどうぞお楽しみに。皆様の
投稿をお待ちしています。

編集後記 新会員さんをお迎えし、新たな年が
スタート。皆さんにご指導をいただき右往左往
しながらどうにか一年が経過。まだまだ分から
ないことがたくさん。

プロバス日より243号編集という重責を担当
させていただき、改めて20周年の重みと歴史を
実感。20周年記念行事、記念誌発行等々、素晴
らしい足跡に改めて感動。 (山崎光子)